

嗅覚刺激訓練法における自伝的記憶の想起介入効果の検証と 認知症予防プログラムの開発

Verification of the Effect of Autobiographical Memory Retrieval Intervention in
Olfactory Training and Development of a Dementia Prevention Program

山本 晃輔（Yamamoto Kohsuke）

認知症高齢者の急増によるさまざまな問題は、わが国のみならず世界的にも公衆衛生上の重要な課題として認識されている。近年、認知症研究で注目される嗅覚刺激訓練法は高齢者の認知機能改善に有効であることが示されている。しかし、その効果を高める最適条件や認知メカニズムは明らかにされていない。本研究では、嗅覚刺激訓練法時における記憶想起に注目し、その認知メカニズムの解明を通して、認知・発達心理学理論に新たな局面を開くとともに、認知症予防プログラムの開発を目指す。

2023 年度は、記憶想起に注目した嗅覚刺激訓練法による介入を行い、それによって高齢者の認知機能が改善されるかどうかを検討することが主目的であった。具体的には、健常高齢者 50 名を対象に、嗅覚同定能力検査キットを 1 ヶ月の間隔を経て 2 回実施した。参加者の半数には日常的に嗅いだ匂いと関連する過去の出来事、すなわち自伝的記憶を毎日想起してもらい、それを 1 ヶ月間日記に記録するように教示した（記憶想起群）。残り半数の参加者はこのような日記を記録しない統制群であった。実験の結果、統制群では事前と事後において同定能力に差がみられなかったが、記憶想起群では、事前から事後にかけて同定能力が有意に向上した。この成果は次年度 International Congress of Psychology にて発表予定である。その他、関連する研究発表も含め、2023 年度の学会発表件数は計 7 件であり、学術論文は計 3 編が審査の結果、採択された。

【主な研究成果】

Yamamoto, K. & Sugiyama, H. (2023). Influences of age-related positivity effect on characteristics of odor-evoked autobiographical memories in older Japanese adults. *Frontiers in Psychology*. 13:1027519. doi: 10.3389/fpsyg.2022.1027519.

Yamamoto, K. (2023). The relationship between the age-related positivity effect of odor-evoked involuntary autobiographical memory and subjective well-being. *Journal of Japan Association on Odor Environment*, 54, 306-309.

Yamamoto, K. & Irie, T. (2023). The mental health of problematic drinkers and the characteristics of autobiographical memories evoked by the odor of alcohol. *Society for applied research in memory and cognition XIV*.

山本晃輔（2023）. 高齢者における嗅覚と自伝的記憶研究の近年の動向—嗅覚同定能力、加齢性ポジティブティ効果、機能の観点から— においかおり環境学会誌, 54, 161-166.